

関係各位

## 2026年10月期第2四半期(中間期)連結決算の概要

2026年6月11日  
株式会社トップカルチャー

### (1) 総括

#### 「大幅な増収増益、中間決算の過去最高益を達成！」

当社グループの2026年10月期第2四半期(中間期)連結決算(2025年11月1日~2026年4月30日)は、以下の通りです。

- ・売上高：93億98百万円(前年同期 96百万円増、前年同期比101.0%)
- ・営業利益：1億42百万円(前年同期 2億54百万円増)
- ・経常利益：1億13百万円(前年同期 2億62百万円増)
- ・親会社株主に帰属する中間純利益：8億12百万円(前年同期 10億74百万円増)

#### ➤ トピック

(売上高)

- ✓ トップカルチャーは堅調な売上推移
- ✓ 子会社4社は、全て増収かつ中間決算の過去最高売上達成
- ✓ 明文堂のグループ化が売上寄与

(利益)

- ✓ トップカルチャーの収益改善が奏功
  - ・物販粗利改善
  - ・新規事業、テナント増~収益構造の見直しによる粗利率改善
  - ・運営コスト及び本部コストの見直しによる販管費圧縮
- ✓ タリーズ事業の粗利率改善
- ✓ 子会社2社が中間決算の過去最高益達成(トップブックス、メソッドカイザー)

### (2) 連結業績の要素別分析

当社グループは、2026年4月1日付で株式会社明文堂プランナーの書店事業9店舗を、事業承継いたしました。この事業承継は、地域に根差した書店運営の継続と発展を目的とするとともに、当社の強みである複合書店の運営ノウハウを注入することで、高収益な店舗モデルへの進化を目指すものであります。これにより、富山県、石川県をはじめとする北陸エリアへの出店基盤が強化されました。

また、中期経営計画(2024/10月期~2026/10月期)の最終年度として、引き続き、読書という“人”にとってかけがえのない文化を未来へつなぐ書店創りを目指し、読書と触れ合う機会を創出するオリジナル企画や施策を強化するとともに、書籍を中心とした事業展開、新規商品・企画の導入、売場改装を推進し、複合書店としての価値向上に取り組みました。

取り組みの中心となります書籍は、品揃えを拡充し、オリジナル企画やフェアを不断なく展開、本を通じた豊かな時間を提案するとともに、中でも“本を贈ること”の提案を強化しております。本を贈るということは、単なるプレゼントではなく、相手を思う気持ちを届けることに繋がり、新たなコミュニケーションや共通の話題を生み出し、本と人を繋ぐきっかけ創りになると考えております。また EC 販売も、安定的に一定の売上水準を維持し、リアルとネットの共創により売上を創出してあります。

また、複合書店の強みを活かし、来店動機や滞在価値を創出するため、書籍×○○の掛け合わせによる相乗効果の最大化を推進しております。定番商品の見直しを始め、全国の名店お取り寄せグルメや人気ファッションアイテムの導入、人気通販ショップの店頭販売施策や観光地物産展の展開、その他新たな発見や感動体験を提供する POPUP ショップ等を戦略的に展開しております。

加えて、今後の書店においては、地域に必要とされる場として、新たな価値を付加していくことが重要であると考えております。多種多様なイベント開催、新規事業やテナント導入も加速させております。2025年11月20日に MORIOKA TSUTAU (岩手県) に1号店目、2026年4月20日に蔦屋書店小出店(新潟県)に2号店目となる、当社新規事業の「買取大吉」をオープンいたしました。

2026年4月24日には、蔦屋書店大町店(長野県)に DAISO を売場面積を拡大し、リニューアルオープンいたしました。その他、楽天モバイルやふるいちトップブックス、サントリーグループのサービス「TAG LIVE LABEL」専用ドリンク自動販売機の導入、クレーンゲームなどのアミューズメントパークとの掛け合わせによる書店と遊びの融合など、既存店舗の改装を推進しております。併せて、4月1日付で事業承継しました店舗におきましても、今後店舗改装等を実施してまいります。

なお、グループ子会社でありますスポーツ関連事業、訪問看護事業、飲食事業、ゲーム・トレカ販売事業につきましては、売上高が前年中間期を上回り、連結業績に寄与いたしました。グループビジョンであります「MAKE LIFEVALUE.」のもと、書店事業を軸とした各子会社との連携を強化しております。

第42期上期の店舗状況におきましては、新潟県の2店舗が営業を終了し、店舗数は44店舗となりました。また、グループ子会社において、2店舗を出店する一方、2店舗が営業を終了、さらに事業承継により9店舗が加わった結果、グループ全体の店舗数は107店舗(2026年4月30日時点)となりました。

以上の結果、当中間期の連結業績は、売上高93億98百万円(前年同期比101.0%)、営業利益1億42百万円(前中間期は営業損失1億11百万円)、経常利益1億13百万円(前中間期は経常損失1億49百万円)、親会社株主に帰属する中間純利益8億12百万円(前中間期は親会社株主に帰属する中間純損失2億62百万円)となりました。売上高は、事業承継の影響もあり前年を上回り、主軸であります書籍や特撰雑貨文具は、当社の取り組みによる効果により、堅調に推移いたしました。利益は、閉店や改装に伴うコスト増の影響もありましたが、既存店舗の収益改善が進みました。

### (3) 今後の展望

下期につきましても、読書と触れ合う機会を創出するとともに、日常を豊かにし、新たな発見や体験価値を提供する複合書店創りを推し進めてまいります。また、環境保護や労働環境改善など SDGs への取り組みを進めるとともに、店舗の運営効率化による収益力向上の基盤構築に努め、グループ子会社 5 社との連携も強化し、蔦屋書店事業との相乗効果の最大化を図ってまいります。

\*\*\*\*\*

本文書に関するお問い合わせ先：株式会社トップカルチャー 取締役経営企画室長兼管理本部長 吉田勝一  
〒950-2022 新潟市西区小針4-9-1 電話 025-232-0008